

# 夫立会い分娩に対する分娩者側と 医療者側の意識

半藤 保<sup>1)</sup>, 五十嵐祥子<sup>2)</sup>, 新井 繁<sup>3)</sup>, 湯沢秀夫<sup>3)</sup>, 吉谷徳夫<sup>3)</sup>, 長谷川功<sup>3)</sup>

1) 新潟青陵大学看護学科

2) 杏林大学医学部付属周産期センター

3) 済生会新潟第2病院産婦人科

## Consciousness of Pregnant, Postpartum Women, Midwives and Obstetricians for Delivery with Husband attending

Tamotsu Hando, MD,PhD<sup>1)</sup>, Syouko Igarasi<sup>2)</sup>, Sigeru Arai, MD, PhD<sup>3)</sup>,  
Hideo Yuzawa, MD,PhD<sup>3)</sup>, Norio Yosiya, MD,PhD<sup>3)</sup>, Isao Hasegawa, MD,PhD<sup>3)</sup>

1) Department of Nursing, Niigata Seiryō University

2) Perinatal Center, Faculty of Medicine, Kyorin University

3) Department of Obstetrics and Gynecology, The Second Niigata Saiseikai Hospital

### Abstract

Delivery with husband attending is now a leading trend in major hospitals in Japan.

Questionnaire for 81 pregnant women, 76 postpartum women after normal vaginal delivery showed its usefulness, alleviating anxiety of intrapartum women for delivery (66.7%), husband becoming more co-operative for child nursing, strengthening bond between wife and husband.

Once a woman experiences a delivery with husband attending, she again desires the same delivery style with her husband at the next opportunity of delivery.

Questionnaire about advantage and disadvantage of delivery with husband attending for 26 midwives and for 4 obstetricians showed affirmative answers, but some answers showed negative response for delivery with husband attending, pointing out that a few husbands attend delivery of their wives just for fun.

### Key words

Delivery, Husband attending, Advantage

### 要 旨

夫立会い分娩は今日多くの産科施設で日常的に行われる時代を迎えている。そこで、新潟市内にある済生会新潟第2病院において、妊婦81人、正常分娩を済ませた褥婦76人に、アンケート調査法により「夫立会い分娩」についての意識調査を試みた。その結果、妊婦の約半数は「夫立会い分娩」を希望するが、夫の都合で実現に至らないものが約1/3あること、褥婦76人中35人(46%)は夫立会い分娩を実施し、その大部分(33人、94.3%)は夫立会い分娩が良かったと答え、80%が次回の分娩時にも夫立会い分娩を希望していた。

助産師22人、ならびに産婦人科医4人の「夫立会い分娩」についての利点と欠点に関するアンケート調査によれば、「夫立会い分娩」を肯定的にとらえ、むしろ積極的に夫が立ち会う方が良いとしたものもあった。逆に「夫立会い分娩」を否定的にとらえる助産師はなかった。また、産婦人科医の中には、医療サービスの一環として、「夫立会い分娩」を採用するとした回答があった。

### キーワード

分娩、夫立会い、利点

## はじめに

分娩の場に夫が立ち入るようになったのは、欧米では1960年頃からといわれているが、日本では遅れて1980（昭和55）年頃からである。<sup>1)</sup>最近のわが国では、夫立会い分娩を希望する夫婦が増加傾向にある。<sup>2)</sup>夫が分娩に立ち会うことは産婦にとってどのような効果や期待があるのか。また、夫立会い分娩を受け入れる病院の分娩介助者にはどのような利点や欠点があるのか、夫立会い分娩に対する妊婦、産褥婦の意識とあわせ、調査を試み興味深い成績が得られたので報告する。

## 対象と方法

新潟市内にある済生会新潟第2病院（以下S病院と略す）で、平成15年8月14日から8月20日の間に外来を受診した妊婦、平成15年4月から7月までの間に同病院で正常分娩を済ませ、産後入院中の褥婦、ならびに同病院で正常分娩した後すでに退院した褥婦を対象とした。また、分娩介助者側として、S病院で妊産褥婦を受け持つ助産師と産婦人科医師にもアンケート調査を行った。

S病院では分娩する患者夫婦の希望に応じて夫立会い分娩を認めており、これは夫の事前教育の有無によらない。S病院における分娩数は、平成13年882件、そのうち帝王切開分娩数199件（総分娩数の22.6%）、平成14年892件、うち帝王切開分娩数212件（同23.8%）であった。また、夫立会い分娩の頻度は、正確な数字は不明であるものの、正常分娩のうち、約7割に実施している。

対象者ごとのアンケート調査用紙配布数、回収率は表1の通りである。褥婦（59%）を除き、いずれのグループもアンケート調査表

の回収率は80%ないしそれを超えていた。

妊婦、褥婦、看護師、産婦人科医に配布したアンケート調査票をそれぞれ表2、表3、表4、表5に示す。いずれの調査も、病院の許可を得て行い、調査対象者には無記名で自由に記載してもらう方法によった。

## 成績

### 1) 妊婦81人に対するアンケート調査成績

#### 夫立会い分娩希望の有無

夫立会い分娩を希望するもの 21人（25.9%）、希望なし 38人（46.9%）、未定のは27.2%であった。

#### 夫立会い分娩希望の理由

重複回答により夫立会い分娩を希望した21人にその理由を尋ねたところ、生命誕生の喜びの瞬間を夫婦でともに分かち合いたい 16人（76%）、心強く安心できる 15人（71%）であり、その他に夫が育児に対して協力的になることを期待して 10人（48%）、夫婦のきずなが深まる 6人（29%）、その他 7人（33%）であった。

#### 夫立会い分娩を希望しない理由

夫が望まない 16人（42.1%）、妊婦が望まない 17人（44.7%）とほぼ同数であった。その他の理由としては、帝王切開分娩予定、セックスレスになる可能性がある、陣痛室までなら付き添って欲しい、などであった。

#### 夫立会い分娩を望むか否か未定の理由

出来れば夫立会い分娩を希望するが、夫の都合がつかない 11人（50%）と、未定とはいえ実際には都合さえつけば夫立会い分娩を希望するものが半数を占めた。その他の理由としては、夫婦間で話し合ったが未定 6人（27.3%）、とくに話し合っていない 3人

表1 アンケート回収率

対象者	配付数(人)	回答数(人)	回収率(%)
妊婦	100	81	81
褥婦	130	76	59
助産師	25	22	88
産婦人科医	5	4	80

表2 夫立会い分娩に関するアンケート票（妊婦健診受診者用）

1. 分娩予定日 平成 年 月 日
2. 年齢： 本人（ 歳） ご主人（ 歳）
3. 出産は何回目ですか （1）初めて （2）2回目 （3）3回目 （4）4回目
4. 職業： 本人（ ） ご主人（ ）
5. 家族構成（同居者のみご記入ください）（ ）
6. 「夫立会い分娩」の経験はありますか？ （1）あり （2）なし
7. 今回の出産では「夫立会い分娩」を希望していますか？ （1）希望する （2）希望しない （3）まだ決めていない
8. 7. で「（1）希望する」と答えた方にお聞きします。希望する理由を下記より選んで下さい。 （複数回答可） （1）出産の時に心強い、安心できる （2）生命誕生の瞬間を夫婦で分かち合いたい （3）夫婦の絆が強まると思う （4）夫が育児に対して協力的になると思う （5）その他（ ）
9. 7. で「（2）希望しない」「（3）まだ決めていない」と答えた方にお聞きします。夫立会い分娩を希望しない、またはまだ決めていない理由を下記より選んで下さい。（複数回答可） （1）夫が望まない （2）自分が望まない （3）特に話し合っていない （4）話し合っているがまだ決めていない （5）出来れば希望したいが夫の都合がつかない （6）その他（ ）

表3 「夫立会い分娩」に関するアンケート票（産褥婦用）

1. 出産年月日：平成 年 月 日
2. 年齢： ご本人（ 歳） ご主人（ 歳）
3. 今回の出産は何回目でしたか？ （1）初めて （2）2回目 （3）3回目 （4）その他（ 回目）
4. 職業： ご本人（ ） ご主人（ ）
5. 同居家族構成（ ）
6. 今回の出産では「夫立会い分娩」をしましたか？ （1）した （2）しなかった
7. 「夫立会い分娩」をされてのご感想を教えてください。次のうちご自分の気持ちに近いものを選び、またその理由もお答えください。
1) 夫立会い分娩をして良かった その理由；（1）夫婦の絆が強まった （2）不安や心細さが和らいだ （3）夫の言動がうれしかった （4）出産は夫婦の共同作業だと思った （5）夫は育児に対して積極的であると思う （6）その他（ ）
2) 夫立会い分娩をしない方が良かったと思う その理由；（ ）
3) どちらともいえない その理由；（ ）
8. 6で「（2）夫立会い分娩をしなかった」と答えた方のみお答えください。 あてはまるものをお選び下さい。 （1）自分が希望しなかった （2）夫が希望しなかった （3）都合がつかなかった （4）希望していたが、夫が出産に間に合わなかった （5）その他（ ）
9. 今後、出産する機会があれば「夫立会い分娩」を希望しますか？ （1）希望する （2）希望しない （3）分からない

表4 「夫立会い分娩」に関するアンケート票（助産師用）

1. 助産師としての勤務年数  
 (1) 1年未満 (2) 1年以上6年未満 (3) 6年以上10年未満 (4) 10年以上
2. 「夫立会い分娩」の経験例数  
 (1) 9例以下 (2) 10 - 99例 (3) 100例以上
3. 「夫立会い分娩」について「長所」と「短所」を挙げて下さい。(自由記載)

長 所	短 所

表5 「夫立会い分娩」に関するアンケート票（産婦人科医師用）

(自由記載)

長 所	短 所

(13.6%)、夫が望まない 2人(9.1%)などであった。妊婦自身が望まないとする回答は22人中1人もなかった。

2) 褥婦76人のアンケート調査成績

褥婦自身による夫立会い分娩の評価

夫立会い分娩をしてよかったは35人中33人(94.3%)、しないほうがよかった 0人、どちらともいえない 2人(5.7%)であった。

夫立会い分娩をしてよかったと答えた褥婦33人の理由

複数回答方式ながら、もっとも多かったのは不安が和らいだ 22人(66.7%)、夫が育児に協力的 9人(27.3%)、夫の言動が嬉しかった 7人(21.2%)、出産を夫婦共同の作業だと思った 6人(18.2%)、夫婦の絆が強まった 5人(15.2%) などであった。

どちらともいえないと答えた2人の理由

2人とも夫は役に立たなかった、と答えた。

次回分娩時の夫立会い分娩に関する希望

今回夫立会い分娩を経験した35人中、次回の分娩の際にも夫立会い分娩を希望するか否かについては、希望する 28人(80%)、希望しない 2人(5.7%)、分からない 5人(14.3%)で、次の分娩機会にも夫立会い分娩を希望する褥婦の多さが際立っていた。

3) 助産師22人に対するアンケート調査成績

助産師の勤務年数は、1～6年未満が11人

(50%)、6～10年未満 3人(13.6%)、10年以上 7人(31.8%)、無回答 1人であった。

「夫立ち会い分娩」経験例数は、10～99例 19人(86.4%)、100例以上 1人(4.5%)、分からない 2人(9.1%)であった。

夫立会い分娩について行ったその利点と欠点を、複数回答方式により率直に記入してもらった。結果を表6にまとめた。

利点として挙げられたことは、夫がそばにいて安心して、産婦が本音を出してくれること 10人(45.5%)と最も多く、次いで夫も子供の誕生を直ちに実感でき、子供への愛情が深まって育児に積極的になれる 9人(40.9%)、夫婦でともに感動でき、出産の喜びを共感できる 6人(27.3%)、その他は、薬剤を投与したり、異常事態発生時に直ちに処置のための同意を得られる 1人(4.5%)などであった。

欠点としては、産婦が夫に甘え、精神的に不安定になる 5人(22.5%)、夫婦とも互いに自分たちがイメージする通りに医療側が介助せず不満が残る、ならびにセックスレスになる 5人(22.7%)の他は、早産に立会いショックを受けた夫がいる 2人(9.0%)、分娩見学に終わる夫がいる、あるいは会陰縫合を見たがる夫もいる 1人(4.5%)などであった。

表6 助産師からみた「夫立会い分娩」の長所、短所

長 所		短 所	
1. 身内がそばにいて安心して、産婦が本音を出しやすい。	10人 (45.5%)	1. 産婦が主体性を失う。産婦があまえ、スタッフに反抗的になる。	5人 (22.7%)
2. 薬剤を投与したり、同意を得たりするときに説明がしやすい。	1人 (4.5%)	2. 分娩介助に支障をきたすことがある。	1人 (4.5%)
3. 妻の頑張りを見て愛情が深まる。	6人 (27.3%)	3. 夫婦がともに自分達のイメージ通りに診療側が動いてくれず、不満が残る。	5人 (22.7%)
4. 夫婦で感動を共感できる。	6人 (27.3%)	4. セックスレスになる。	1人 (4.5%)
5. 夫も子供の誕生を実感し、子供への愛情が深まる。夫が育児に積極的になる。	9人 (40.9%)	5. 早産に立会い、ショックを受ける夫がいる。	1人 (4.5%)
		6. 分娩見学に終わる夫がいる。	1人 (4.5%)

#### 4) 産婦人科医4人に対するアンケート調査成績

概ね助産師と同じ回答傾向を示したが、興味深かった回答として、夫立会い分娩が時代の潮流であり、医療がますますサービス業としての側面を強めている折から、これを積極的に導入すべきこと、とした点であった。

### 考案

わが国における家族の構成が核家族化したといわれてからすでに久しい。かつての三世代大家族構成時代には、産婦の実母あるいは義母が分娩に立会い、産婦の身の回りの世話や、産婦の精神的不安を和らげる上で大きな役割を果たしていた。しかし、現代ではそのような母の立会い分娩は困難となり、加えて男女が共同で子供を生み、育てるという意識の改革に伴って夫立会い分娩が多くの病院で主流となりつつある。このような時代を迎え、夫立会い分娩が産婦、褥婦、助産師、産婦人科医の立場から見てどのようにとらえられているかは極めて興味深い問題である。

永井ら<sup>3)</sup>、関根<sup>4)</sup>、二宮ら<sup>2)</sup>、ならびに本研究から、夫立会い分娩の利点、欠点は表7のごとくまとめることができる。

今回アンケート調査で回答のあった妊婦81人の集計では、夫立会い分娩を希望するものが21人(25.9%)で、希望しない38人(46.9%)より少数であった。しかし、分娩に際しての夫立会い分娩を未定とした22人中、半

数の11人は夫の都合さえつければ夫立会い分娩を希望していた。希望者を加えると、妊婦81人中32人(40%)が夫立会い分娩を希望し、希望しないとしたものと近似した頻度を示していた。この点について、二宮ら<sup>2)</sup>は出産前には約半数の夫婦が夫立会い産を希望し、夫あるいは妻のどちらかが希望する場合も含めると約8割が夫立会い産を希望するとしている。

また、褥婦76人中夫立会い分娩を経験した35人のアンケート調査から、夫立会い分娩をしてよかったと回答したものが33人(94.3%)と大多数を占め、夫立会い分娩が産婦にとって好ましいと回答したことは注目に値する。すなわち、妊婦のアンケートでは夫立会い分娩希望者が26%であったものが、夫立会い分娩を経験した褥婦になると次回分娩の際にも再び夫立会い分娩を希望するものが80%にも上昇したことである。(表8)このような結果から、今後ますます夫立会い分娩は増加して行くことを示したといえよう。

分娩介助の中心をなす助産師は夫立会い分娩を肯定的に考え、否定的な意見はなかった。また、産婦人科医師は医療がサービス業であることを自覚し、産婦が望むものであるなら夫立会い分娩をさらに積極的に導入すべきと回答したことから、夫立会い分娩に多少の欠点はあるもののそれらを克服し、多くの利点をもつ夫立会い分娩が将来さらに発展するであろうことは間違いのないことといえよう。

表7 夫立会い分娩の利点と欠点

利 点	欠 点
1. 産婦の精神的安定を得られる	1. 産婦が夫に甘え、精神的に不安定になる。
2. 産科スタッフの分娩室での行動、努力を夫に理解してもらえる。	2. 産科スタッフの邪魔になることがある。
3. 異常時、その場で夫に発生過程を確認し、納得してもらえる。	3. 異常事態発生時、夫がうろたえる。
4. 夫婦の絆が強まる。	4. 妻の出産姿勢や分娩時の夫の言動がその後の夫婦関係に影響する。
5. 生命誕生の感動を共有できる。	5. 分娩室の汚染。
6. 夫が父親になることを自覚し、育児へスムーズに移行できる	6. 夫立会い分娩を、夫が単に興味本位にとらえることがある

表8 まだ「夫立会い分娩」を経験していない妊婦と「夫立会い分娩」を経験した産褥婦が回答する次回出産時の「夫立会い分娩」の希望

	妊婦	産褥婦
	人数(%)	人数(%)
夫立会い分娩を希望する	21(26)	28(80)
夫立会い分娩を希望しない	38(47)	2(5.7)
未定	22(27)	5(14.5)
合計	81(100)	35(100)

### 謝 辞

本研究の推進に当り、快くご承認を下された  
済生会第2病院、ならびにアンケート調査に  
ご協力くださった各位に心からお礼を申し上げ  
ます。

(本研究の一部は、新潟青陵大学研究助成金によ  
って遂行された。)

### 引用文献

- 1) 堀口貞夫。夫立会い分娩。周産期医学、1991；  
20(10)：1539-41。
- 2) 二宮恒夫、谷 洋江。父親の育児に関する学習。  
夫立会い産の現況。助産婦雑誌、1999；53(6)：  
534-37。
- 3) 永井 宏、岡村けい子、鈴木孝子。立会い分娩  
の功罪。周産期医学、1988；18(1)：47-53。
- 4) 関根憲治。夫立会い分娩の問題点と対策。周産  
期医学、1993；23(7)：1037-41。

